

産業建設常任委員会

◎島 英之 ○高橋 征夫 近藤 浩
竹嶋 久雄 上野 勝 青山 晋

京都府綾部市

綾部市は、公共施設整備も兼ねた区画整理を実施し、中心市街地の活性化を図っていた。特に、南北にまたがる商店街を一本化した形で、個店全店の新築などの商店街改造をはじめ、道路の拡幅、両歩道にアーケードを新設するなど明るい装いにイメージを変えていた。さらには大型店に対抗するため、店に横付けして買い物ができる駐停車帯も設置して、利便性を図っていた。

綾部市の手法は、商店街の活性化のみならず将来に向けて、ひとつの指針となりえないかと考えさせられた。

車で乗り付けられる商店街

10月5日
～7日

歴史や文化を活かしたまちづくり 福井県福井市

福井市では、福井城址周辺の豊富な歴史的環境や文化的な資源を町づくりに活かすべく、歴史のみち整備推進室を整備した。また、翌年には、市民による歴史のみえるまちづくり協会が設立された。これにより、官民一体となった事業が推進され、郷土の歴史がみえる町づくりを完成させた。わが町でも、官民一体によるまちづくりも検討する必要があると感じた。



明るい装いの綾部市の商店街

11月7日～9日

◎尾作 武夫 ○小野 芳久 小山 時夫
小池 信一郎 大坪 国広 小川 龍美

愛知県犬山市

犬山市では「教育は未来への投資、かつ最大の公共事業である」との強い信念を柱に教育改革が始まった。2学期制や少人数学級の導入に留まらず、副読本を市独自で作成し、また、非常勤教員の採用のため、給食の民間委託で財源を捻出するなども行っていた。しかし、こうした取り組みができた背景には、市民の教育意識の高まりや理解と協力があつたからとのことである。教育は人任せではないということを、深く受け止めるなければならない。

厚生文教常任委員会 教育は最大の公共事業



伊勢市保健センターで健脚度測定を体験

大きな広がりを見せた介護予防 三重県伊勢市

転倒骨折から寝たきりになる高齢者が多いため、市では転倒予防教室を始め、今では大きな広がりを見せていた。この背景には、高齢者が継続して運動に参加できるよう、「無理なく楽しく」を心がけたこと、受講生OBが地域で自主グループを立ち上げ、活動を継続していることなどが、大きな要因であると説明を受けた。わが町の介護予防施策でも参考にすべき内容であった。

委員会視察報告

◎委員長 ○副委員長

10月12日～14日

総務常任委員会

◎吉岡 忠 ○谷 四男美 木原 武雄 福島 千恵子 森 亘 原 成兆

コンセプトは市民が株主 大分県臼杵市

臼杵市では、変化、多様化する住民ニーズを把握し、事業評価に反映させる独自の行政評価システムを確立していた。注目すべきは、個々の行政事業についてのコストや利用実績などを積極的に市民に公開し、市民参加のワークショップまで高めていたことである。まさに、行政は事業者、市民は株主の関係といえる。委員会としては、当市の視察研修を活かし、わが町の行政評価が有効に機能するよう町行政に3つの提言を行った。

成功には、議員の意識改革

熊本県長洲町

長洲町では、各町内会などの組織が自ら主体的に計画立案し事業化する「一区一創運動」を展開していた。花いっぱい運動、伝統行事の復活など、それぞれが充実した内容であるが、町からの補助は一律5万円とのことで、各施策に住民自らの知恵と汗が見えてくる。

この施策の成功には、地元への利益誘導から、町全体の経営観点で意見、提言する議員へと意識改革やレベルアップを図らなくてはならないとの説明もあった。我々議員一同、この言葉を真摯に受け止めなくてはならない。



一区一創運動で種から育てている長洲町の「花いっぱい運動」